

十字園だより

第124号



さつき寮

ぶどう狩り



九月九日、さつき寮の五名の利用者さんと白根グレイプガーデンへ出かけました。

天候が心配されましたが、外出中は雨が降ることなく、天候に恵まれ、お出かけ日和！

行きの中内では「どこ行くのー？」と楽しい声が聞かれました。

グレイプガーデンでは、ぶどう一房もぎ取り・数種類ざる盛り・ジェラートセットを味わいました。現地の方からぶどう狩りのコツを伺い、どのぶどうにしようか吟味する利用者さん。ハサミを上手に使って、おいしい巨峰をゲットしました！

グレイプガーデンの後は、ふるさと村へ移動し、ふるさと村を散策。アピール館のカフェで雪室コーヒーを頂き、おいしいコーヒーに満足げな表情を浮かべていました。

お待ちかねのランチタイムは、ふるさとご膳とハンバーグランチの好きな方を選び、お腹一杯食べました。利用者さんの笑顔が沢山見られ、楽しい外出ができて良かったです。

(田中)

今、思うこと

課長 鈴木 雅子

三年間支援課課長として従事し、今感じていることをお伝えしたいと思います。

この三年間で変化したことです。

まず利用者さんの入退所が以前に比べ増えました。これは利用者さんの高齢化に伴い亡くなられた方、医療重視の病院や施設へ移られた方が増えたからと考ええます。高齢化については、十字園の現状と現在の制度を踏まえ、園としてできる限りのことを行っていくという姿勢で、利用者さんにとって最優先するものは何なのか、最良のサービスは何なのかを問い続けなければいけないと思っています。

次に、具体的な話ではなく申し訳ないのですが、「数年後の十字園の姿がなんとなくイメージできるようになってきた」とです。

以前は、利用者の高齢化や若

年利用者への支援のあり方等、

職員については人材育成等々課題はたくさんあるのですが、暗

中模索の状態で、将来像を描くことが出来ませんでした。でも、この三年をかけて、どのように進めばいいのか少しずつ整理されていったように思います。特に古俣園長の打ち出した「経営理念」「活動方針・指針」「重点活動事項」、これらは職員が具体的にどのように進めばいいのか明記されています。将来像をイメージし、具体的に行動する

：夢が夢で終わらないように、実現するようにと切に願います。

最後に私事で恐縮ですが、この三年間で私自身の環境も変わり、家族の高齢化が、現実問題として迫ってきました。今やらなければいけないことは何なのかを考え、退職という選択をしました。

今まで働くことが出来たことに、そして支えてくださった皆様様に、深く深く感謝いたします。ありがとうございます。

『親亡き後…』

課長補佐 南波 龍太

今年の四月には、障害者総合支援法施行後三年後の見直しを迎えます。昨年の十二月十四日に社会保障審議会障害者部会から見直しについての報告書が出されました。幾つかの論点があり、それぞれに提言がなされています。その中に高齢の障害者に対する支援の在り方について現状と課題が記されているのですが、現状として、六十五歳未満の障害者で親と同居している知的障害者は九〇・七%、親と生活している割合が高く、親による支援は生活全般にわたる場合があり、『親亡き後』は生活を総合的に支援する者が失われるとあります。施設入所されている方も主支援者が親であることが多いのは明白であると思います。なので、今後の取組として、『親亡き後』への備えも含め、障害者の親族等を対象とし、成年後見人制度の利用促進(例えば、支援者に伝達するために作成する本人の成長・生活に関わる情報等の記録の活用:エンディングノート)や適切な助言を行い、親が持つ支援機能を補完

し、障害者福祉サービス事業者、成年後見人、自治体、当事者・家族など様々な関係者で本人を支えるチーム作りを主導する為に、主任相談支援専門員(仮称)を創設するべきであると記されています。確かに現状がそうであるので、今後の取組としても以上のようなことが必要だとは思いますが、この事は、日本の障害者福祉の現状は、障害者の親や家族は、自分が死ぬまで面倒を見ているという証明であると思います。現状としては、親が高齢期を迎えた頃に、ようやくその後の支援を考えているのです。そうではなく、もっと早い段階で、障害があるとしても、二十歳を過ぎたら成人ですので、一社会人と捉え、障害がある本人を中心とした生活を支える仕組みを作っていくことが、大切なのではないでしょうか。その事が、障害があっても安心して暮らせる社会につながっていくように思います。よりノーマルな…と偉そうに記しましたが、福祉従事者として自分にも求められていると思いますので、『親亡き後』ではなく、『親ある内』に安心してもらえらる様、努力させていただきます。

重度・高齢化への取り組み 職員のスキルアップ研修

支援員 羽部 真奈美

今年度、重度・高齢化係では重度・高齢化が進む十字園で今後必要となってくる介護の知識や技術について学ぶ為、園外の講師の先生をお招きし、スキルアップの為の研修を行いました。

第一回は十月二十六日、青陵大学短期大学部 春口好介先生より「食事介助 嚥下の仕組みと誤嚥について」という題目にてご講義頂きました。嚥下の基本から、誤嚥について、また食事介助のポイントと食事全般について教えて頂きました。質疑応答では、個別ケースの相談を沢山させて頂き時間が足りない程でした。



第二回は十一月二十五日、新潟医療福祉カレッジ 安藤陽子先生より「ボディメカニクスに基づく身体に負担を掛けない介護方法」を題目にご講義、実技指導頂きました。

重度・高齢化が進み身体介護を必要とされる方が増えてきています。ボディメカニクスを用いた介護方法では、この原理等を活用して重心移動を効果的に行う事で、利用者の皆さんへの身体への負担を軽減する事は勿論の事、介助する側の職員の身体への負担を軽減できます。実技指導では、職員が順番に介助する役・される役になりベッド上での移動や、体位交換の方法について学びました。介助される側になり気付く事も沢山あり、職員皆真剣に取り組んでいました。



今後、このような機会を設け職員のスキルアップを図っていきたいと思います。

人権擁護委員会の

活動について

支援員 近風 富子

人権擁護委員会は、オンブズマン委員会、虐待防止委員会、意見・苦情受付の三つの委員会構成されています。

オンブズマン委員会では、オンブズマン委員の方々に定期的に来園して頂き、支援方法から生活環境に至るまで多岐にわたり、ご意見、ご指導を頂いております。施設生活を続けていると忘れがちな「当たり前」の生活」を再認識することができ、支援方法の見直しや環境改善を行っています。十字園のように施設でオンブズマンを置いてい

る事業所は少ない為、他施設との研修では高く評価を頂いております。

虐待防止委員会では、日頃のご利用者様から虐待に繋がっているような行為を早期に見つける為のチェックリストや、虐待の

事例検討を毎月、支援員全員で行っています。また、気をつけたい言葉づかいや対応の仕方を掲示し意識して行動出来るように工夫しています。

職員は人数も多く年齢層も幅がありますが、今後も様々な研修を通じ統一した意識のもと、より質の高い支援を提供し、ご利用者にもご家族にも安心して生活して頂けるように努めていきます。

【ご意見・苦情の受付状況】

◎総件数…二件

○苦情…○件

○ご意見…二件

・ご利用者の身だしなみについて

・家族会費の情報公開について

(平成二十七年四月～九月)

ひのき寮

主任 伊藤 孝之

今年度も利用者の皆様の笑顔、そしてご家族の皆様のご理解とご協力を頂きありがとうございますございました。

園でも、寮においても高齢化・重度化は避けられない大きな課題です。怪我や病気、事故等で利用者及び家族の皆様にはご心配とご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。その都度ご家族からは温かいお言葉を頂きありがとうございますございました。

来年度は少しでも外出する機会が増えるよう考えていきたいと思えます。園の中ばかりでは息が詰まってしまいますし、外の風を感じたり、美味しいものを食べに行ったり、楽しみを感じられるような事を行っていききたいと思えます。ささやかな楽しみがあれば少しはひのきもいいかな、とちよつとでも利用者の皆様に思ってもらえればありがたいです。

今年度も色々ありがとうございますございました。来年度も引き続き宜しくお願い致します。

いぶき寮

主任 藤田富美代

早いもので、今年度もまもなく終わろうとしています。いぶき寮では「ゆつたりとした生活の提供」を目標とし、寮職員一丸となり支援に努めてきました。

昨年度の今頃にも高齢化・重度化が進んでいるということとをここで伝えさせていたただいていますが、加えて、体調を崩しやすくなっているという状況も見られています。日中の過ごし方や食形態など、細かい部分を常に意識していくことの大切さを感じました。余暇について、寮行事や喫茶外出、誕生会などを行ってきました。好きなこと・楽しいことをしている時の皆さんの表情はとて最高です。今後そんな時間を計画し、過ごしていただきたいと思っています。

一年間、ご協力ありがとうございますございました。来年度もよろしく宜しくお願い致します。

けやき寮

主任 高橋 正人

今年度の目標として、個別支援計画に盛り込んだ支援内容を念頭に置き取り組んでまいりました。年度始めに、具体的な支援内容を数点挙げていましたが、利用者さんの日々の状態の変化に伴い、支援方法の変更が頻繁で、正直、支援計画の内容重視とまではいかなかったように感じています。

しかし、状態の変化を日々様子観察し、各担当が中心になり関係職員との連携を図って、即時即応の対応が出来た事は大きな財産だったとも言えます。

来年度は利用者さん個々に応じた支援と同時に、重度・高齢の方や強度行動障がい等をお持ちの方への、専門的な対応力が益々必要だと思えます。スタッフ一同努力してまいりますので宜しくお願い致します。

さつき寮

主任 高橋 保江

二〇一五年度も保護者の皆様のご理解・ご協力のお蔭で大変充実した良き一年でありました。感謝申し上げます。

寮目標として「日中活動・余暇活動の充実」を挙げ、二年間取り組んできました。

日中活動では、寮外へ出て場所を変え、少人数での活動を行いました。また、晴れた日には積極的に外へ出て歩行しました。余暇活動では、行事以外に新たに「昼食外食」を行い、レストランやラーメン店等へ出掛けました。皆さん、とても喜んでいました。

また、応用行動分析学を用いた支援を試み、皆さんのより良い生活を目指しました。来年度も、変化する環境の中、様々なことに挑戦する気持ちを持って支援させて頂きたいと思っております。

ひのき寮

かき氷大会



とある夏の日、ひのき寮の夏のイベント『かき氷大会』が行われました。暑い日だけあって参加者の皆さんはかき氷機を見るとまだかまだかと待ちきれない様子。職員と参加者はすっかり頭にタオルを巻いてかき氷大会スタート。



皆さんとてもおいしそうにかき氷を食べていました。そして食べるペースが速く、職員はへとへとになりながらかき氷を作っていました。楽しく涼しい一夏の日となりました。(吉田)



いぶき寮

外食



一〇月二十一日、いぶき寮の利用者様四名と職員三名で



梅の花まで外食に行ってきました。お料理は、ボリューム満点！全部食べられるかな不安な職員のとらなりで、「うんまーい！」と、皆さんあつという間に食べ終わりました。最後に大好きなコーヒーを飲み、海を見ながらドライブをしてみました。天候にも恵まれ、皆さんの大満足の笑顔を見ることができました。(堀内)



けやき寮

温泉外出



穏やかな日差しが降り注いだ十月十五日、利用者の方三名と職員二名で秋葉温泉『花水』へ出掛けてきました！行きの中は温泉とお昼ご飯の話で持ちきりです。



いざ到着すると皆さんのテンションは最高潮です。美味しいご飯と温かい温泉を満喫しました。やっぱり温泉は最高ですね！「また来年も来たいです」と皆さん喜んでいました。来年も行くから待っててね、花水。(伊東)



コスモス

ふるさと村へ レッツゴー！



毎年恒例、秋の外出。今年のはふるさと村へレッツゴー。

この時期はダリアの花が満開でした。皆さんの顔程ある大きな花のダリア。その存在感と色合いは圧巻です。目の保養になりました。その他にも、降雪体験、ふるさとシアター、買い物、喫茶等、童心に返ってはしゃいだり、おいしいものを食べて、ほっこり幸せな気分になったり、十名の利用者さんが思い思いに楽しんだ秋の一日でした。(太田)



縁の下の力持ち～

雑務

最初に紹介するのは「雑務」を担当して下さっている方です。毎朝、まずは園長室の掃除をすることから一日が始まります。書類に目を通す園長の周りで黙々と掃除を行い、時々園長との会話も楽しまれているようです。その後、洗濯室で十字園のご利用者の洗濯物たたみを行います。



約100名分の衣類をたたむ作業は容易ではありません。洗濯たたみを業務委託している基準寝具様と一緒に作業に当たり、日々ご利用者の元に清潔な衣類が届くよう汗を流して下さっています。その他にも食事の配膳や正面玄関内の来客スペースの掃除をしたり幅広く業務に当たって下さっています。



その活躍は、正に『縁の下の力持ち』です。(清水)

その活躍は、正に『縁の下の力持ち』です。(清水)

十字園で働いている職員という多くの人が生活支援員、看護師、栄養士、事務職員をまず思い浮かべるかもしれませんが、しかし、実際にはもっと大勢の人たちが十字園を支えてくれています。

今号ではそんな『縁の下の力持ち』とも言える人たちに焦点を当てて紹介したいと思います。



用務員さん



広い施設内の雑務・修繕を一人で管理している用務員さんについてご紹介します。

業務内容は、主に電球交換・修理・取り付けです。広い施設ですので、どこかしらの電球が切れていて毎日施設中を動き回っています。その他、フィルター清掃・建具の補修・障子貼り・園庭の手入れまで幅広い作業をしています。

十字園に新たなベンチが設置されました。元は少し色あせた物でしたが、丁寧にペンキを塗りまるでホームセンターから新品で買った様な仕上がりでした。

こうして、利用者の皆様が安心して寛ぎ楽しめる様、今日も施設内外を見回っている用務員さんです。(中野)



十字園には、夜警員として3名の方が勤務されています。みんな、親しみを込めて「夜警さん」と呼んでいます。そんな夜警さんは、事務員のいない夜間や休日に、電話対応や窓口対応をしてくださっています。

他にも、毎朝の園舎周りの巡回、ゴミ捨て、海風で舞う大量の落ち葉掃きなど、その仕事は様々です。また、

利用者の皆さんも夜警さんの勤務を楽しみにしていて、「今日は誰が来るの？」と毎朝聞きに来られる方も。

365日、夜間を見守り、十字園を支えてくださる夜警さんは、とても頼もしい存在なのです。

夜警さん、毎日ありがとうございます！(小林)



夜警員さん

特集 ～十字園の

日清医療食品さん



十字園の給食を作って下さっている日清医療食品の皆さんを紹介いたします。現在8名のスタッフで、十字園と他施設分を合わせ一日約400食の食事を提供しています。

「安心・安全な食事提供」の為に衛生管理はとにかく温度管理が重要で、納品時の食材の表面温度から加熱後の中心温度まで食材別にしっかり測定します。その他、厨房内の温湿度や、12箇所もある冷凍冷蔵庫も始業前と終業後に毎日細かく点検しています。

また、個人の嚥下機能に配慮し安心して食事を召し上げて頂けるよう、ソフト食にも取り組んでいます。

「美味しい」「最高!」と言って貰えると励みになります。今年には更に上を目指して「幸せだ」と感じて貰えるような食事作りを目指して頑張りたいと思います。(三岡)



世話人さん



少人数でゆったりとした生活を楽しんでいただこう。そんな思いをこめて、ハイマートでは現在6名の利用者様が生活されています。そこには、世話人さん2人の御尽力のもと、個々の生活における様々な場面に応じた配慮をいただいております。

夕方、世話人さんが寮舎に迎えにきます。それぞれが楽しみにしている瞬間です。ハイマートに行ってから、夕食の準備を手

伝う人もいます。居間で同居メンバーが集い、夕食を食べてからはお風呂に入ったり、お茶を飲んだり、思い思いに過ごされ夜が暮れていきます。利用者の方々も、それぞれリラックスし、世話人さんとの間に生まれるアットホームな雰囲気を楽しんでおられます。(山岸)



キングランさん



来客の方々に、「きれいにされてますね」とお褒めの言葉をいただきます。それは、何を隠そうこの3人の力の賜です。

十字園では掃除をキングランさんに委託しています。月～金曜の午前中、十字園を隅から隅まできれいにして下さいます。本業は勿論、気づいた所があったらいつでも言って下さい、という謙虚な姿勢。故障箇所いち早く気づいて下さるきめ細やかな対応。そのおかげで掃除の行き届いた快適な生活ができています。

お揃いの青いTシャツで汗をかきながらピカピカにして下さるキングランさんに感謝しかありません。いつもありがとうございます。(中村)



これから皆で力を合わせて安全で快適な生活環境を整えていきたいと思えます。今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。